michotte feature

未来
mirai

松江の子どもたちにはつながりがあるまちで、
こんな未来を築いてもらいたい。
そんな松江で暮らす大人たちのコメントを集めてみました。

愛には愛を。地元で育ち地元のために頑張る若者へのインタビュー

はじめに

皆さんは小さい頃、どんな大人になりたかったでしょうか。私は絶対都会に出て便利で華やかな暮らしをする、この田舎から出る、そう思ってました。しかし幼稚園、小学校、中学校と成長して行く中で気持ちが変わりました。自分をここまで育ててくれたのは地元、玉湯町のおかげ、父や母と同じくらいに接してくれる小さな町の大きな人々。私はこの町に恩返しをしないといけないと思いました。そして、いつしかそれが夢になりました。玉湯町には「たまゆメンバーズくらぶ」という玉湯中学校を卒業した高校生以上のメンバーで構成されるボランティアグループがあります。そこに所属し思いを同じにするメンバー2人に今回話を聞いてました。

Interviewee

たまゆメンバーズくらぶ
会長 下山 哲平
育林業 玉湯町在住 21歳

たまゆメンバーズくらぶ
前会長 渡部 史人
調理師・栄養士 28歳

Q. 小さい頃はどんな子どもだった？

哲 元気で明るい外で遊ぶのが好きな子どもでした。子どもの頃好きだったのは機関車トーマスで、その中でもゴードンが好きでした。

史 やんちゃで人の家の畑によく入って怒られていましたね。あまり平成生まれっぽくない子どもだったなと思います。外でも中でもオールマイティに遊んでいましたね。

Q. ボランティアグループ参加のキッカケは？

哲 高校2年生くらいの頃に兄の影響でボランティアに参加しました。初めて出たのは町の文化祭だったような気がします。出店で汗だくになったのをよく覚えています。出店を通して今まで話したこともなかった地域の人と交流が生まれました。それと同時に町にはこれだけの人がいてこの小さい町でこんなに盛り上がることができるのかと、町の力に驚きました。そして、一緒に出店をしていた中学生の姿を見てこの風景だけは永遠に守っていきたい、そう強く思い活動に参加しています。

史 僕は町に人がいなくなってしまう恐怖を強く感じたんです。人口がどんどん減っていき、みんなどこかへ出ていって帰って来ないのではないか、この町もいつの間にか人がいなくなってしまうのではないか。他人事ではなく何か自分にできる事はないかと思っていた時「たまゆメンバーズくらぶ」の存在を知りました。みんなが帰ってくる場所を守りたい、そんな思いで活動に参加しました。

Q. なぜ社会人になっても活動を続けている？

哲 地域の人と一緒に活動していく中で、ひとつのことに対して町のいろいろな人が関わって向かっていくのがすごく楽しいです。町全体で楽しさを共有している感覚が好きなんです。

史 続けることが、この町に人を残す事になると考えています。やっていることに意味があると思いますし仕事の休みをとって参加するほどですから。活動に疲れを感じないんです。

Q. 地元でこういった活動を続けている点について親子関係も大切ではないかと思いますが何かエピソードがありますか？

哲 親からはたくさん大事な言葉をもらったなと思っています。小さい頃、僕は嘘をよくつく子でした。隠しごともしょっちゅうでしたし、でもなぜか母にはバレるんですよね。その度に母から言われたのは「嘘をつく人だけにはなるな」でした。今もそこは意識するようにしています。父とのエピソードは、中学校の頃、部活が嫌で嫌で辞めたいと父に相談したことがありました、その時父は「一回耐えてみろ」こう言ったんです。最初は何で苦しいことを続けないといけないのかと思っていました。しかしその言葉に助けられたこともあります。おかげで忍耐力が鍛えられ、高校の部活も仕事もしんどいことはたくさんありましたが、辞めたことはありません。

史 僕はやりたいことをやらせてもらえたことが大きいかなと思います。小さい頃は習い事をたくさんさせてもらっていました。今でも活かせる所が多く、ちゃんとつながっているなと実感しています。進学などの際も応援してくれました。もちろんダメな時もありましたがダメな理由をちゃんと説明してくれる親でした。今、仕事にしている料理も親の影響が大きいですね。

たまゆメンバーズくらぶ
たまゆメンバーズくらぶ
たまゆれゴーナ
100円
特別賞・・・・・豪華賞品
60点以上・・・おかし2個とあめ1個
30点・・・・・おかし2個とあめ1個
20点・・・・・おかし2個
10点・・・・・おかし1個
頑張って賞・・・あめ1個
たまゆ1日コース
ルール
・1回目は
・切符は現地受付にて購入
・2回目は
・2回目・・・・・